

2017年1月11日

法学類1年生の皆さんへ

法学類長

2017（平成29）年度 学域GS言語科目Ⅰ・Ⅱ 受講希望票の提出について

皆さんが2年生以降に履修すべき専門教育科目として**学域GS言語科目（2単位必修）**があります（1年生で履修した共通教育科目のGS言語科目とは異なりますので注意してください）。

法学類の学域GS言語科目Ⅰ・Ⅱ（1単位+1単位）は、(A)第1・第2クォーターまたは、(B)第3・第4クォーターに連続して開講するため、受講者は(A)または(B)のどちらか一方で続けて履修をしなければなりません。法学類では、2017（平成29）年度、学域GS言語科目を(A)では6クラスを開講しますが、(B)では2～3クラス程度しか開講を予定していませんので、原則として、(A)で履修することを推奨します。

4月から開始する授業を円滑に進めるために、(A)第1・第2クォーターに開講する学域GS言語科目については、皆さんから受講希望票を提出してもらい、受講クラスの割り振りを行うことにしました。学域GS言語科目は専門的な英語の習得を目的としていますが、授業内容は担当教員によって異なるため、下記の要領のほか、担当予定教員が作成したシラバスをよく読んでから受講希望票を提出してください。

記

(1) 注意事項

- ① (A)第1・第2クォーターに開講する学域GS言語科目のシラバスをよく読んで受講希望票に第1希望から第4希望まで担当教員名、開講曜日・開講時限を記入すること。ただし、受講希望者が多い場合、抽選などによる選抜を予定しています。
- ② (A)第1・第2クォーターにおいて希望するクラスで学域GS言語科目を受講できない場合、または、受講したが不可となった場合、法学類が(B)第3・第4クォーターに開講するクラスで学域GS言語科目を履修することができます。
- ③ 法学類以外の学類（人文学類、経済学類、地域創造学類、国際学類、学校教育学類）が開講する学域GS言語科目を受講することもできます。ただし、各学類とも自学類の学生の受講を優先する予定であり、クラスの定員が充足した場合には受講できないことがあります。
- ④ 英語に関する外部検定試験において、一定の成績を収めた場合、学域GS言語科目Ⅰ・Ⅱ（2単位）の単位認定がなされる予定です。~~このため、2017年2月に1年生の皆さんが受験するTOEIC-IPテストの結果、単位認定に該当すると判断された人は、今回の受講希望票に基づくクラスの割り振りから除外しますので、注意してください。~~

2017年2月に学内で実施したTOEIC-IPは、共通教育科目であるGS言語科目の成績評価に利用するため、学域GS言語科目の単位認定の対象からは除外することになりました。上記文書の(1)注意事項④下線部を削除します（2017年4月7日追記）。

- ⑤ 2017年2月におこなわれるエジンバラ大学法律英語研修を履修する1年生には、学域GS言語科目(2単位)および海外語学研修(法学類専門科目・2単位)が単位認定されるため、2017(平成29)年度に開講される学域GS言語科目Ⅰ・Ⅱを履修する必要はありません。

(2) 法学類が第1・第2クォーターに開講する学域GS言語科目(予定)

仲正昌樹	先生	水曜日・1限
中村正人	先生	水曜日・1限
木村高宏	先生	水曜日・1限
山本竜大	先生	水曜日・1限
山本竜大	先生	水曜日・5限
石田道彦	先生	金曜日・2限

(3) 受講希望票の提出要領

提出期限：2017(平成29)年1月30日(月)17時00分まで(締切厳守)

提出場所：基幹教育学務係に設置した専用ボックス

受講希望票：紙媒体のものに限る

以上

2017（平成29）年度
法学類 学域GS言語科目受講希望票

- 2017（平成29）年1月30日（月）17時00分締切 提出期限厳守
- 総合教育棟の基幹教育学務係にある専用ボックスに投入すること

学 年	
名列番号	
学生氏名	

- 希望する学域GS言語科目（法学類担当教員が第1・第2クォーターに開講する学域GS言語科目の希望を記入すること）
- 受講希望者が多い場合、抽選などによる選抜を予定しています。
- 2017年2月に行われるTOEIC-IPテストの結果、スコアが所定の基準を上回っており単位認定に該当すると判断された人は、この受講希望票に基づくクラスの割振りから除外します。

	担当教員名	開講曜日・開講時限
第1希望		
第2希望		
第3希望		
第4希望		

2017(平成29)年度 学域 GS 言語科目シラバス(揭示用)

授業科目名: <p style="text-align: center;">学域 GS 言語科目 I・II</p>	担当教員名[ローマ字表記]: <p style="text-align: center;">仲正昌樹 [Masaki Nakamasa]</p>	
曜日・時限: <p style="text-align: center;">第1・第2クォーター 水 曜日・ 1 限</p>	対象学年: <p style="text-align: center;">第2学年 (現在の法学類1年生)</p>	募集人数: <p style="text-align: center;">上限30名 (法学類優先)</p>
授業の主題・目標: <p>法学または政治学に関する英語文献を素材にして、専門性の高い文章を解読することができる。</p>		
授業内容: <p>二〇世紀の代表的なリベラリズムの法哲学者で、「原理／ルール」の区別や「法のインテグリティ」論、法実証主義批判で知られるロナルド・ドゥウォーキンの一九八〇年代の政治哲学的著作〈A Matter of Principle〉を、各人の文法的知識・基本的語彙を確認しながら精読し、各人の読解力を高めるのと合わせて、英米の法哲学・政治哲学・倫理学の議論で、「正義」「自由」「善」「法の支配」「価値」などの基本概念がどのように使われているのか学んでいく。最初に一九六〇年代にアメリカの憲法解釈上の重要な問題として浮上してきた〈Civil Disobedience〉に関する章を読み、次に読む章は参加者の関心に従って決める。</p>		
教科書・教材: <p>Ronald Dworkin, A Matter of Principle 必要な部分は、コピーしてわたす。</p>		
評価の方法: <p>出席状況と、その都度の訳・要約の出来、理解度によって評価する。平常の成績が芳しくない者に対しては、追加レポート等を課す可能性がある。</p>		
履修上の注意事項や学習上の助言: <p>無断欠席あるいは理由が不明確な欠席を三回以上続ければ、放棄と見なす。また、大幅な遅刻や、準備しないまま出席する状態が続けば、欠席と同等と見なすこともある。担当箇所を予め決めて訳させることはせず、ランダムに当たって少しずつ訳してもらうことにするので、単位だけ欲しいと思って、いいかげんな気持ちで登録しないこと。</p>		

2017(平成29)年度 学域 GS 言語科目シラバス(揭示用)

授業科目名: 学域 GS 言語科目 I・II	担当教員名〔ローマ字表記〕: 中村 正人〔Masato Nakamura〕	
曜日・時限: 第1・第2クォーター 水曜日・ 1限	対象学年: 第2学年 (現在の法学類1年生)	募集人数: 上限30名 (法学類優先)
授業の主題・目標: 法学または政治学に関する英語文献を素材にして、専門性の高い文章を解読することができる。		
授業内容: フランス法学者の故・野田良之氏がフランス語で執筆した日本法の概説書を英訳したものをテキストに取り上げ、その中の第2章に当たる“History of Japanese Law to 1868”の部分、および第3章に当たる“Reception of Western Law”の部分を読読し、西洋法継受以前(主として大化の改新から江戸時代まで)ならびに以後(明治維新以降)の日本法の歴史に関する認識を深めてもらう。 授業は毎回ランダムに担当者を指名して逐語訳してもらい、必要に応じてこちらで解説を加える形で進める。受講者数にもよるが、一人当たりの分量を少なくし、その代わり毎回できるだけ多くの人に担当してもらうつもりなので、毎回の予習を欠かさないようにしてもらいたい。		
教科書・教材: Yoshiyuki Noda, Introduction to Japanese Law(初回講義時にコピーを配布する)		
評価の方法: 平常点(出席及び翻訳担当状況により評価) 80% 小テスト(各クォーターの最終授業後半に実施) 20%		
履修上の注意事項や学習上の助言: 授業への3分の2以上の出席が必要です。欠席が3分の1を超えた場合には、原則として単位認定はできません。やむを得ない理由で授業を欠席する場合には、必ず担当教員に連絡して下さい。 授業の出欠は、「出席管理システム」を利用して管理しますので、教室に入る際に学生証のタッチを忘れずに行ってください。		

2017(平成29)年度 学域 GS 言語科目シラバス(揭示用)

<p>授業科目名:</p> <p>学域 GS 言語科目 I・II</p>	<p>担当教員名〔ローマ字表記〕:</p> <p>木村高宏〔KIMURA Takahiro〕</p>	
<p>曜日・時限:</p> <p>第1・第2クォーター 水曜日・ 1限</p>	<p>対象学年:</p> <p>第2学年 (現在の法学類1年生)</p>	<p>募集人数:</p> <p>上限30名 (法学類優先)</p>
<p>授業の主題・目標:</p> <p>法学または政治学に関する英語文献を素材にして、専門性の高い文章を解読することができる。</p>		
<p>授業内容:</p> <p>法学または政治学に関する英語文献を素材にすべきではあるが、試行として少し実務的な文献(統計またはプレゼンテーションを予定)を課題図書としたい。</p>		
<p>教科書・教材:</p> <p>検討中(2017年4月には明示予定)</p>		
<p>評価の方法:</p> <p>基本的に出席を含む平常点で評価する。</p>		
<p>履修上の注意事項や学習上の助言:</p> <p>一般に認められるような正当な理由がない場合、講義回数の5分の1の欠席で放棄とみなす。ただし、参加意欲の感じられない者も欠席とみなすことがあるので注意すること。なお、履修者の状況によりグループワークを課すことがある。</p>		

2017(平成29)年度 学域 GS 言語科目シラバス(掲示用)

授業科目名: <p style="text-align: center;">学域 GS 言語科目 I・II</p>	担当教員名〔ローマ字表記〕: <p style="text-align: center;">山本 竜大</p>	
曜日・時限: <p style="text-align: center;">第1・第2クォーター 水曜日・1限</p>	対象学年: <p style="text-align: center;">第2学年 (現在の法学類1年生)</p>	募集人数: <p style="text-align: center;">上限30名 (法学類優先)</p>
授業の主題・目標: <p>法学または政治学に関する英語文献を素材にして、専門性の高い文章を解読することができる。</p>		
授業内容: <p>指定されたテキストの一部を、精読していく。ただし、学生ごとの担当部分は事前設定しないため、予習と復習が不可欠である。講義進捗により内容は変更するため、以下の予定は仮のものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 立法府 3. 政府と官僚 4. 選挙とレファレンダム 5. 連邦及び地方政府制度 6. 政党 7. 政党制度 8. 中間試験 9. 利益集団 10. 社会運動 11. 政治文化 12. 政治参加 13. 政治コミュニケーション 14. 政策形成 15. 期末試験 		
教科書・教材: <p>Daniele Caramani (2013) <i>Comparative Politics</i>, Oxford University Press, p. 624.</p>		
評価の方法: <p>授業には、3分の2以上の出席を必要とする 中間試験：50% 学期末試験：50%</p>		
履修上の注意事項や学習上の助言: <p>政治学の知識も含め、予習と復習を十分におこなってください。</p>		

2017(平成29)年度 学域 GS 言語科目シラバス(掲示用)

授業科目名: <p style="text-align: center;">学域 GS 言語科目 I・II</p>	担当教員名〔ローマ字表記〕: <p style="text-align: center;">山本 竜大</p>	
曜日・時限: <p style="text-align: center;">第1・第2クォーター 水曜日・5限</p>	対象学年: <p style="text-align: center;">第2学年 (現在の法学類1年生)</p>	募集人数: <p style="text-align: center;">上限30名 (法学類優先)</p>
授業の主題・目標: <p>法学または政治学に関する英語文献を素材にして、専門性の高い文章を解読することができる。</p>		
授業内容: <p>指定されたテキストの一部を、精読していく。ただし、学生ごとの担当部分は事前設定しないため、予習と復習が不可欠である。講義進捗により内容は変更するため、以下の予定は仮のものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 民主主義と専制 3. 選挙制度と代議制 4. 政党と政党システム 5. 市民と政治参加 6. 選挙キャンペーン 7. 女性とマイノリティの政治的代表 8. 中間試験 9. 経済投票 10. 投票行動：選択と状況 11. 選挙区調整と政治的正当性 12. 権威主義下の選挙と政権交代 13. どうして選挙が問題になるか 14. 選挙とメディア 15. 期末試験 		
教科書・教材: <p>Lawrence LeDuc, Richard G. Niemi and Pippa Norris (2014) <i>Comparing Democracies 4: Elections and Voting in a Changing World</i>, Sage, p.247.</p>		
評価の方法: <p>授業には、3分の2以上の出席を必要とする 中間試験：50% 学期末試験：50%</p>		
履修上の注意事項や学習上の助言: <p>政治学の知識も含め、予習と復習を十分におこなってください。</p>		

2017(平成29)年度 学域 GS 言語科目シラバス(揭示用)

授業科目名: <p style="text-align: center;">学域 GS 言語科目 I・II</p>	担当教員名〔ローマ字表記〕: <p style="text-align: center;">石田道彦 (ISHIDA Michihiko)</p>	
曜日・時限: <p style="text-align: center;">第1・第2クォーター 金 曜日・2 限</p>	対象学年: <p style="text-align: center;">第2学年 (現在の法学類1年生)</p>	募集人数: <p style="text-align: center;">上限30名 (法学類優先)</p>
授業の主題・目標: <p>法学または政治学に関する英語文献を素材にして、専門性の高い文章を解読することができる。</p>		
授業内容: <p>この講義は、前半と後半に分けて行います。 前半は、専門書の一部を受講者とともに読んでいきます。テキストは、フランシス・フクヤマ『政治秩序と政治腐敗』(Francis Fukuyama, POLITICAL ORDER AND POLITICAL DECAY)を予定しています。現在のアメリカの政治制度の機能不全が記述された後、太古の昔にまでさかのぼり、法制度や政治制度の意義と課題を考察した興味深い本です。受講者に一節を訳してもらい、担当教員が指導、解説を加える形で授業を進めます。 後半は、毎回、法制度や政治に関する英米のニュース、コラムをとりあげ、受講者とともに読んでいきます。日本のメディアではあまり取り上げられない題材を選んでいきたいと考えています。</p>		
教科書・教材: <p style="text-align: center;">Francis Fukuyama, POLITICAL ORDER AND POLITICAL DECAY (配布する)</p>		
評価の方法: <p>前半と後半に実施する小テスト 50 % 授業での担当状況 50 %</p>		
履修上の注意事項や学習上の助言: <p>授業外学習として、予習が必要となります。特に前半はしっかり準備をしてください。</p>		